

(3) 社会組織

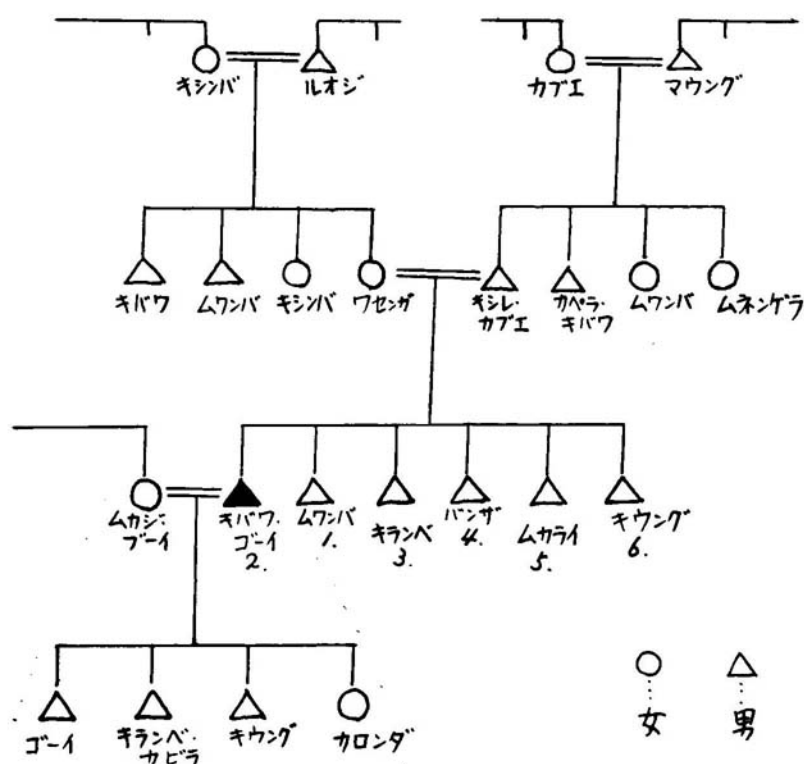
1. バンド社会

バテンボキャンプは、移動的社会集団であるバンド社会と思われる。狩猟採集活動をするために、季節的移動を行っているからだ。

移動は家族単位で行っている。我々の滞在中にも、8月に入ったころ、首長とは親族関係になる一家族がキャンプに入ってきた。

また、このキャンプ自体も、首長の兄弟を中心にした血縁集団で、親類関係を持って成り立っているようだ。

<首長の家系図>



名前は精霊名らしく、続けつながられるようだ。1人で2つから3つの名をもっている。

2. バンド外婚と夫方居住婚

バテンボの男は、同じバテンボの内から配偶者を見つけるらしい。農耕民との場合、彼女の両親が納得しないからだ。

キャンプが近くに集まる時に、男は配偶者を捜すようだ。同じキャンプ(バンド)から捜さない。バンド外結婚である。男は気に入った(結婚したい)女の子ができたなら、先ず昔からの友人に話し、それから家族や親類に話すそうだ。この友人が、以後の二人のメッセンジャーとなり、彼女の両親などと交渉するのである。結婚の決定権は親が持っている。彼女の両親が納得した場合、両親か親類の者が男のキャンプに顔を出して戻る。次に男が女のキャンプに行き、1週間程一緒に生活をする。そして、彼女を連れずに男1人で自分のキャンプに戻ってくる。それから数日後、彼女が男のキャンプに嫁いでくる。つまり、夫方居住婚である。男は彼女の両親に対し、婚資(キクユンベ・ズボン・ポット等)を贈り、結婚の儀式が終了するらしい。

原則として婚姻は、一夫一婦制である。しかし、キャンプ員が納得すれば、一夫多妻も許されているようだ。4つのキャンプで、1つの一夫多妻例があった。我々の滞在したキャンプは皆、一夫一婦制であった。

3. 組織運営

<役職者の存在>

我々の滞在したキャンプには首長である「フム」が存在していた。彼はキャンプ内の鎮静を維持し、仲間の安全を守る。つまり、キャンプ内外でのトラブルに対し、裁断を下し解決する、政治的役職者である。もちろん、裁断を下す時に老人たちの意見を参考にする

その他の役職として、「フム」が不在の時に首長の代理を務める「カピタ」がある。彼はキャンプ内で、「フム」と他のバテンボたちの中間に立ち、情

報伝達役も務める。

成員の少ない小キャンプには、そのキャンプを代表する「キローロ」がいる。「キローロ」は「フム」の統制を受ける、小キャンプの長である。

しかし、バテンボ全体を統轄するのは、農耕民のカサマ村の首長である。バギギや我々のような外部の人間とバテンボとのトラブルは、カサマ村の首長が裁断を下す。

また、バテンボからカサマ村への労働提供もあった。滞在中に一日、キャンプの男達のほとんどが、カサマ村へ家を建てる手伝いに出かけていった。

<大 罪>

バテンボの大罪ワースト3を上げてもらった結果、第1は人殺しであり、第2は浮気(姦通)、第3は窃盗であった。外部の人間が関係した犯罪ほど、大きな犯罪が多いようだ。

裁断を受けた犯罪者は、お金やニワトリ・肉などを供^えという形をとり、罪を清算する。

<精 霊>

精霊(スピリット)をまつるのも「フム」が中心となる。彼らの精神的拠り所とも言える精霊は、キャンプのほぼ中央にまつられている。

また、キャンプに持ち帰った獲物も、必ずこの精霊に暫く供え、それから調理にかかる。



<精霊の家>



報伝連役も勤める。

成員の少

る。「キ

しかし

る。ボ

村の酋長

また、

キャンプの

た。



＜大 罪＞

ベナンゾの大罪リー＜獲物を精霊に供える＞結果、第1は人殺しであり、第2は浮気を通じ、第3は窃盗であった。外惑の人間が関係した犯罪ほど、大きな犯罪が多かった。

裁断を受けた犯罪者は、鳥やニソトリ・肉などを供え、いう形をとり、罪を悔罪

＜精 霊

精霊(ス

高とでも

また、

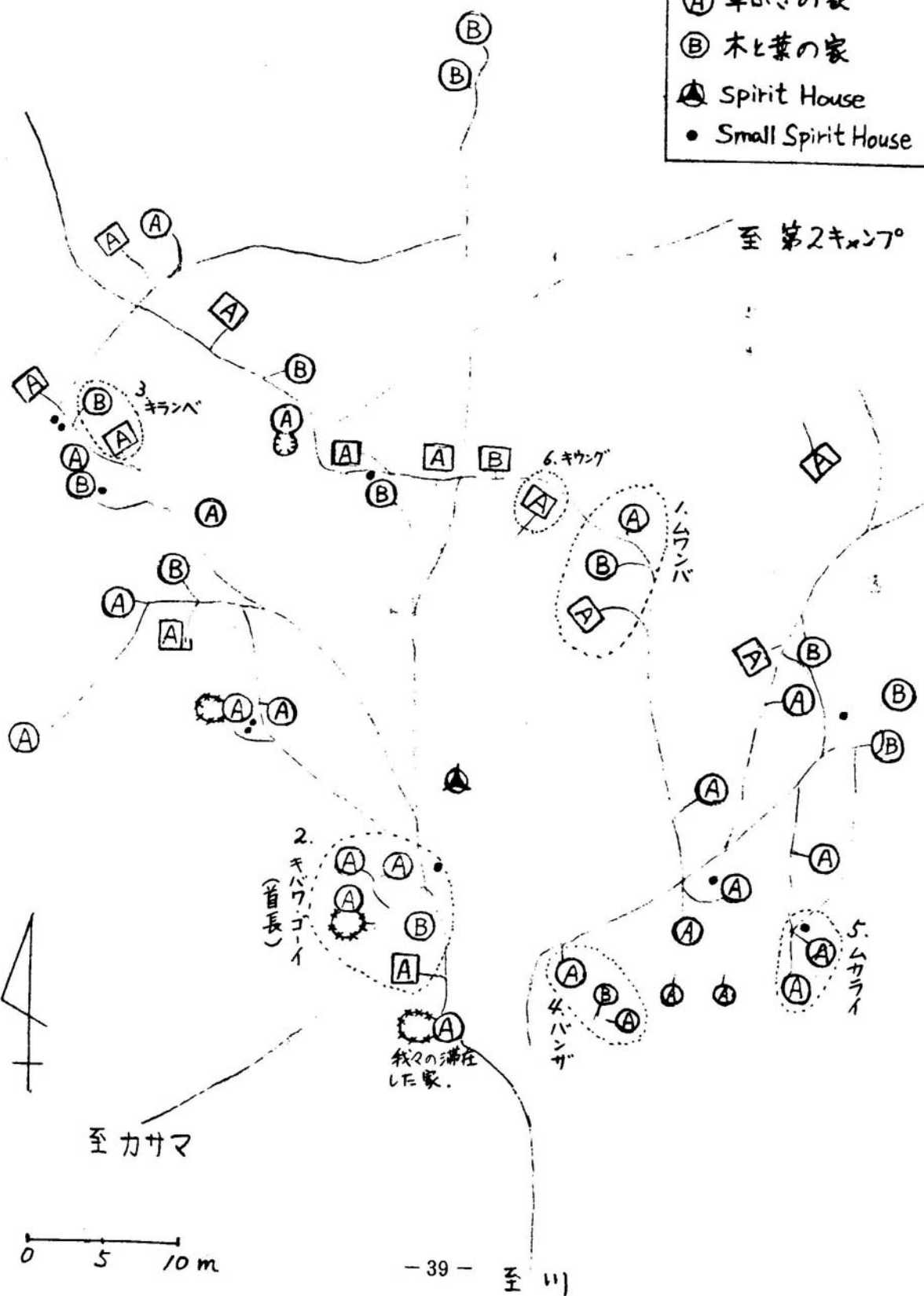
心調度



＜供えられたキソソゴ＞

< バテンボキャンプ 概略図 >

- ① 草ぶきの家
- ② 木と葉の家
- ▲ Spirit House
- Small Spirit House



4. 葬儀について

人が死んだ時、先ず家族の者が死者の身体を洗ってやる。この時、死者と同性の者が洗わなければならない。そして服を着せてやる。死者の身体と同じくらいに穴を掘り、竹で編んだゴザで死者を包み、底に寝させるといふ土葬である。

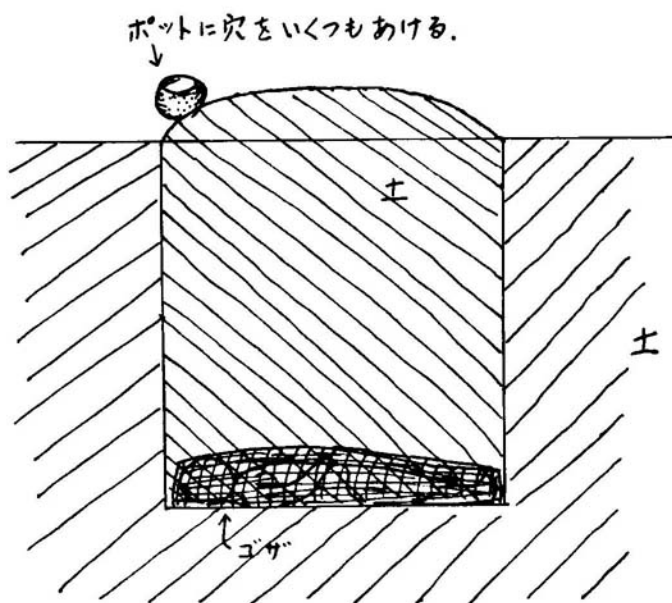
土をかける前に、家族の者が死者に向かって興味深いことを言う。

「もし自然死であつたら、神になって眠れ。もし、誰かに呪われて殺されたなら、そいつを殺せ。」と必ず言うらしい。

その後土を入れ、50センチほどの盛り土をして、穴をあけたポットを置くそうである。副葬品は無いようで、ポットに穴をあけるのは盗まれないためらしい。

そして2・3日後にキャンプ地は移動するようだ。子供が死んでも、同様に移動するらしい。土葬場所としては、死者の家から5～6メートルほど離れたところらしい。

残念ながら、この墓を確認することが出来なかった。



5. 親族について

<親 族>

バテンボの社会集団(バンド社会)を形成しているのは親族である。我々の滞在したキャンプもその親族集団によって成り立っていた。

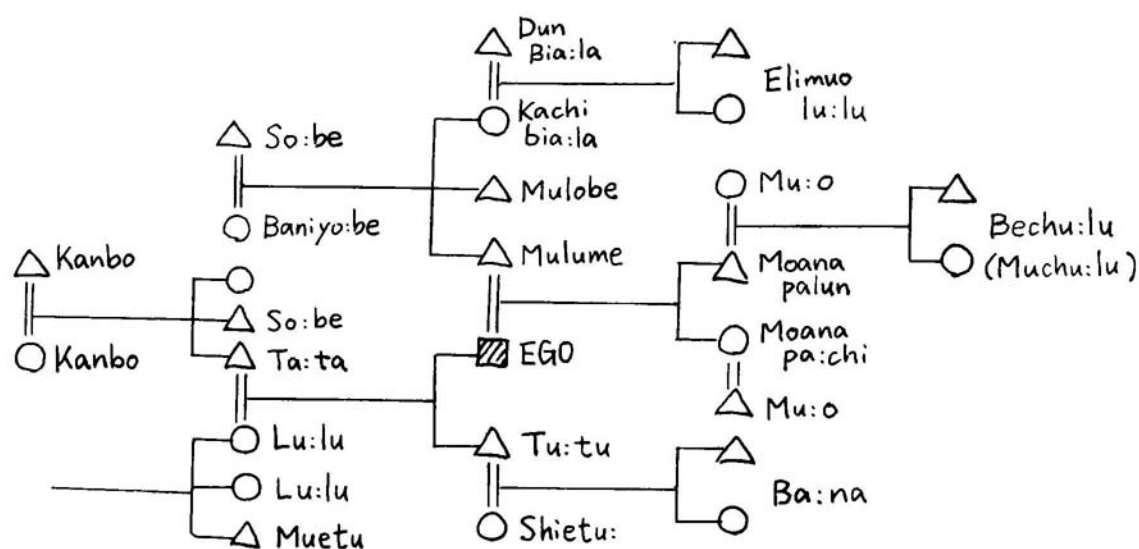
参考までに、下記に親族名称関係図を載せておいた。

<親族名称関係図>

EGO = 女の場合

△…男

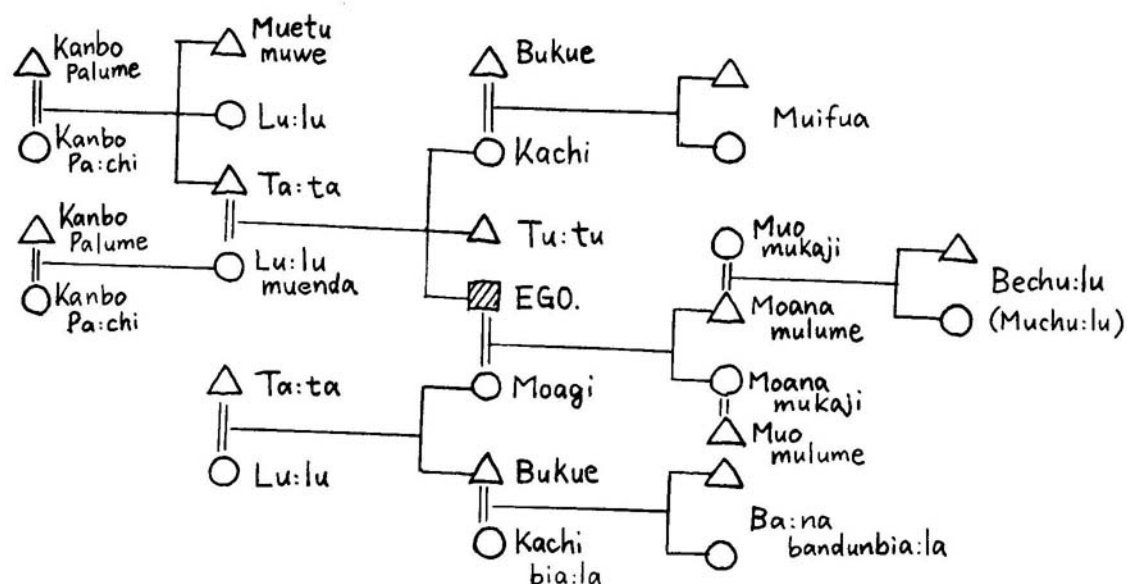
○…女



EGO = 男の場合

△...男

○...女



この関係図からの分析は難しく、ここでは割愛させて頂きたいと思う。

また、我々の調査技術が未熟なために、聞き忘れがあり、非常に残念である。